

以文様爲名

圓座用法

〔中右記〕嘉承二年正月十九日丙午、今日關白殿○藤原忠實大饗也。○中人々集會、行寢殿裝束事、略、其儀、如去康和三年正月廿一日大饗裝束、但辨少納言座上敷高麗錦緣圓座一枚爲非參議大辨座、

〔諒闇和抄〕本殿還御の事

當日早旦、又亮陰の御裝束を奉仕す、○中略殿上朱臺盤を撤して、黒漆の臺盤を立たり、御椅子を撤して、無文圓座を鋪たり、

〔江次第抄正二月〕非參議大辨著無面圓座、四位大辨圓座敷、辨少納言疊之北也、大納言圓座紫白地緣、

中納言黃地緣、參議黒白地緣、

〔雍州府志七土產〕圓座○中略禁裏院中及神社至地下人摠用之、

〔古事談王道后宮〕陽成院御邪氣大事ニ御坐之時、依不御坐儲君、昭宣公○藤原基經親王達ノモトへ行

廻ツ、見事體給ニ、他之親王達ハサワギアヒテ、或裝束シ、或圓坐トリテ、奔走シアハレタリケル

ニ、○下略

〔源氏物語三十九夕霧〕をのづから人のけしきこゝろばへは、みえなんと給はせて、このみや○葉落に、

くら人の少將の君を、御使にて奉り給ふ、

ちぎりあれや君をこゝろにとゞめをきて哀と思ひうらめしとき、なをえ覺しはなたじと

ある御ふみを、少將もておはして、たゞいりに入給ふ、みなみおもてのすのこに、わらうださし出

で、人々物きこえにくし、

〔枕草子六〕大納言殿○藤原伊周は物々しうきよげに、中將殿○藤原隆家はらうくしふいづれもめでた

きを見奉るに、殿をばさるものにて、うへの御すくせこそめでたけれ、御わらうだなど聞え給へ

ど、ぢんにつき侍らんとて、いそぎたち給ひぬ、

〔宇治拾遺物語〕「これもいまはむかし、伴大納言善男は佐渡國郡司が従者なり、○中略しうの郡司